

介護老人保健施設に勤務する看護職者に対する教育プログラムの開発

佐々木雅史¹⁾* 織井優貴子²⁾

1) 青森県立保健大学 健康科学部看護学科

2) 青森県立保健大学大学院 健康科学研究科

Key Words ①介護老人保健施設 ②急変時対応 ③ 教育プログラム

I. はじめに

介護老人保健施設（以下、「老健」とする）は、介護保健法で「介護並びに機能訓練その他必要な医療並びに日常生活上の世話をを行うことを目的とした施設」と定められている（介護保険法 第8条）。利用者は病状の安定期にあるものの、救急医療が必要な状況になることも多い。任意の1県の老健に勤務する看護職者678名を対象にした質問紙による調査では、救急ケアの研修会への参加について、71%が「参加したい」と回答している（福田，渡邊，2010）。このことから、老健に勤務する看護職者の救急ケアに対する興味・関心の高さ、および教育の必要性が推測される。

筆者らは2012年に、老健に勤務する看護師を対象として、急変時の対応に関する研修会を開催した。老健に勤務する看護職者への教育プログラムを開発することは、利用者のQOL（Quality of Life）の向上につながると考えた。2013年度は、そのための基礎的資料として、現場で生じやすい急変事例と、利用者の急変に対応するときに看護師が困難に感じていることに焦点をあてて、情報収集を行うこととした。

II. 目的

本研究の目的は、老健で発生しやすい利用者の急変事例と、それに対応するときに看護師が「困難に感じていること」を明らかにすることである。

III. 研究方法

1. 研究デザイン：質的帰納的研究
2. 研究対象者：老健に勤務する看護師・准看護師6名
3. 研究期間：2013年9月～2014年3月。調査は2013年11月～2014年1月に実施した。
4. 調査方法：独自のインタビューガイドを作成し、半構造化面接法で実施した。
5. 調査内容：インタビューガイドは3項目（①対象者の属性；性別・年齢・所持している資格・資格取得後の経験年数，老健での経験年数，②これまでに経験した利用者の急変事例，③急変事例が発生した時に困難に感じること，困ったこと）で構成し，面接時間は30分程度とした。面接は協力者の同意を得て，ICレコーダに録音した。
6. 分析方法：対象者ごとに逐語録を作成した。その後，対象者のことばをできる限り残し，意味の通じる1文にまとめた。その内容を質的に統合し，カテゴリー化した。
7. 倫理的配慮：本研究は，所属機関の研究倫理委員会の承認を受けた後に実施した。

*連絡先：〒030-8505 青森市浜館間瀬58-1 E-mail: m_sasaki7@auhw.ac.jp

IV. 成果

研究対象者の属性は、女性 6 名である。取得している資格は、看護師 4 名、准看護師 2 名であった。インタビュー時間は 17～39 分（平均 31 分）であった。以下に、カテゴリーを【 】、データを〈 〉で示す。

1. 【休日・夜間は看護師が緊急搬送の判断をする】

夜間に遭遇しやすい急変として、換気不全、脳卒中、発熱などがあげられた。調査対象者からは、〈夜間、医師がいつでも連絡してよいといってくれる〉、〈夜 12 時までは医師が連絡を受けてくれる〉という内容が語られた。また、〈状況は医師に報告するが、利用者の状況をみているわけではないので、緊急搬送の判断は看護職者がする〉という内容も語られ、その時の判断に迷いを感じるという語りがあった。

2. 【施設の経営も考える】

老健利用中で、病院・医院の外来を受診した場合、処方・検査にかかる費用は老健の負担となるため、〈入院しなければいけない状況だと判断したときに搬送する〉、〈外来を受診する時は老健にある内服薬のリストを持って行き、できるだけ似たような薬を処方されないようにする〉といった、老健の経営も考えながら受診の判断や、受診の時に施設の負担が増さないような対応をしていることが明らかになった。

3. 【介護職員との連携をはかる】

今回調査を実施した施設はいずれも 100 名程度の収容人数の施設であり、夜間は看護職者 1 人と介護職員で対応をしていた。そのため、〈自分の勤務している部署と違う部署にいる利用者の普段の情報がわかりにくい〉状況があり、〈介護職員から普段の状況を聞く〉、〈介護職員の意見に耳を傾ける〉といった連携を図りながら、利用者の状態を判断していることが明らかになった。

今後、本結果から、老健施設で遭遇しやすい急変事例についてシナリオを作成し、高度再現度シミュレータを用いて、より現場に即した教育プログラムを開発していきたい。

V. 文献

福田和美, 渡邊智子 (2010), 介護老人保健施設の看護師が経験している入所者の急変とその対応, 日本看護医療学会雑誌, 12 (1), 44-54.

岡田慶一 (2010), 介護老人保健施設における認知症高齢者の救急搬送について, The Kitasato Medical Journal, 60 (3), 219-221.

VI. 発表

【学会発表】

佐々木雅史, 織井優貴子, 佐藤千雪 (2013), 介護老人保健施設に勤務する看護職者への急変時のアセスメントに関する研修, 日本赤十字看護学会.

佐々木雅史, 織井優貴子, 佐藤千雪 (2013), 介護老人保健施設に勤務する看護職者を対象とした「急変時の対応とアセスメントの研修会」の効果, 日本救急看護学会.

日本救急看護学会 (2014, 発表予定)